

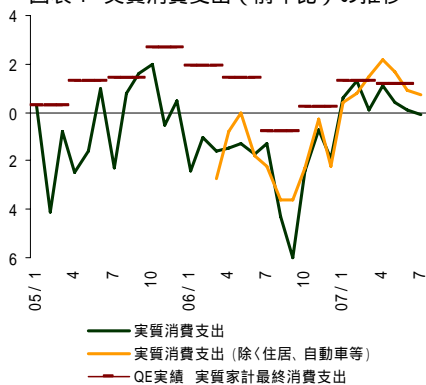
MRI Daily Economic Comment

Mitsubishi Research Institute, Inc.

November 20, 2007

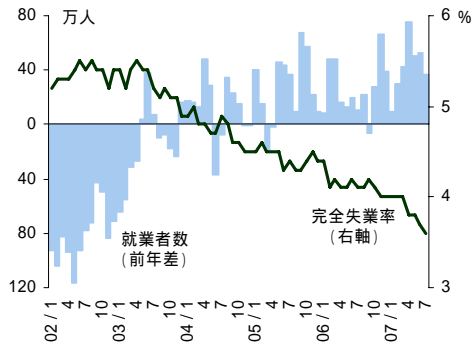
家計関連統計（9月）-消費上振れ、雇用は先行き不透明

図表1 実質消費支出（前年比）の推移



資料 総務省、内閣府

図表2 就業者数と完全失業率の推移

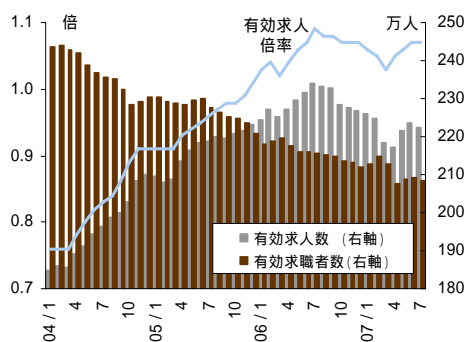


注) 完全失業率：季節調整値。

就業者数：原系列、前年同月差。

資料 総務省

図表3 有効求人倍率の推移



資料 厚生労働省

1. 足元の消費は増加するも基調は弱い

10月26日発表の総務省「家計調査」によると、07年9月の消費支出（2人以上の世帯）は実質前年比3.2%と2ヶ月連続の増加となった。9月に残暑が長引いた影響で秋物の衣服は低調だったものの、引き続きエアコンなどの消費が好調だった。また、首都圏や日本海側で晴天が続いたことで、自動車関係や外食費が高い伸びを示すなどレジャー関連消費が伸び、天候要因が全体を押し上げる結果となった。一方で内閣府による9月の消費動向調査（一般世帯、原数値）をみると、消費者マインドの弱含み傾向は続いており、天候要因を除けば、基調として強いとまでは言い切れない。

勤労者世帯の実収入は実質前年比0.8%と3ヶ月ぶりの増加となった。特に世帯主の「定期収入」は実質前年比0.6%増と6ヶ月ぶりに増加に転じた。

2. 雇用情勢は緩やかな改善傾向だが、男女差が鮮明に

10月30日発表の総務省「労働力調査」によると、07年9月の完全失業率（季節調整値）は前月から0.2%ポイント上昇の4.0%となり、2カ月連続で悪化した。就業者数が前年同月比9万人減と12ヶ月ぶりに減少に転じたが、完全失業者数は同11万人減と22ヶ月連続で減少している。総合的に見ると、依然として雇用環境の緩やかな改善基調は崩れていないと思われる。

ただし、男女の内訳を見ると、雇用環境の男女差が顕著となっており、就業者のうち、男性は前年同月比11万人増と堅調なもの、女性は同21万人減と悪化している。完全失業者数についても同様で、男性は前年同月比12万人増、女性は同1万人減という結果となった。業種別にみると、製造業における女性の就業者数の減少（前年同月比12万人）が継続しているほか、男女ともに、医療・介護（同8万人）や教育関連（同22万人）での就業者数が減少している。

このような雇用環境の男女差やこれまで雇用環境の改善を支えてきたサービス分野の悪化が、今後の雇用全体に与える影響は看過できず、雇用環境は不透明感を増しているといえよう。